

笛吹市地域おこし協力隊 平成 28 年度活動報告

移住定住担当 木村早希

【活動期間】平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

【配属先】笛吹市役所 経営政策部 経営企画課 移住定住担当

【活動目標】笛吹市を知り、訪れ、住んでみたくなる流れの創出

【活動概要】

①笛吹市への移住を促進する活動

市役所の移住定住担当の下、市内への移住を促進するための活動を行った。

・移住相談会、セミナーに出席

主に首都圏で行われる移住相談会や移住セミナーに約 10 回ほど出席。移住コンシェルジュの役割を担い、複数の自治体が集まるイベントではステージ上で市の魅力を紹介した。



イベントで使用したスライド



甲斐適生活応援隊ガイドブック「山梨 Life」8 移住コンシェルジュ特集

・移住制度の調査

近隣市町村の移住窓口を訪ねたほか、全国にある移住に関する制度の調査を実施。どのような制度が、どの程度の支援をしているかをまとめた。平成 29 年度から笛吹市にも「空き家バンク」に関する補助制度など 3 つの制度がスタートすることとなった。

②情報発信活動

市内外に笛吹市の魅力を発信する活動を行った。

・「全国移住ナビ」「ニッポン移住・交流ナビ」の充実

総務省が運営する移住ポータルサイト「全国移住ナビ」と、一般社団法人 移住・交流推進機構が運営する「ニッポン移住・交流ナビ」に掲載する情報を充実させた。特に「全国移住ナビ」は大幅に改修し、アクセスポイントランキングでは県内 1 位、全国順位でみても上位 20 位前後まで上昇した。



・移住者へのインタビュー

実際に笛吹市へ移住した方々に体験談をうかがい、「移住ナビ」にて掲載した。



・移住ガイドブックの作成

記事の作成、写真の選定、レイアウト等に携わった。



- ・山梨学院大学との協働

笛吹市では山梨学院大学と協定を結び、官学連携のカリキュラムを展開。学生が笛吹市の移住政策を提言する授業の中で、地域おこし協力隊から見た笛吹市を紹介した。

- ・「直売所ニュース」発信

「ふえふき観光ナビ」内の直売所ニュースを月2~4回程度更新。各直売所で行われるイベントにも参加している。



- ・「暮らしの便利帳」出演

市内全戸配布される「暮らしの便利帳」に出演し、市の魅力および協力隊の活動をPRした。



- ・地域おこし協力隊として Facebook ページ、

Twitter、Instagram、ブログを開設。日々の活動や、地域で気になること、イベント情報などを発信している。感触としては市内や県内の人々がフォロワーに多い。



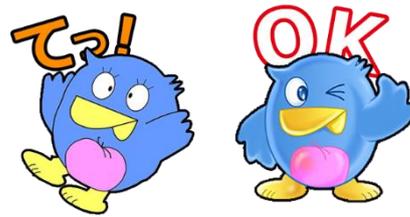
③協働ハンドブックの編集

市民活動支援課が制作した「協働ハンドブック」の編集メンバーとして活動。市民団体などに取材をしたほか、市長へのインタビューも実施した。



④LINE スタンプの制作

笛吹市イメージキャラクター「フッキー」をモチーフにした LINE スタンプを制作・販売。観光案内所などで PR している。



⑤農業体験

イチゴや桃、ぶどう、柿の農作業を体験。その感想を SNS で発信した。



⑥ボランティア活動等

勤務時間外においても”地域おこし”につながる活動を行った。市民まつり実行委員会では企画段階から参加、当日は司会を務めた。その他、ワインツーリズム、石ころプロジェクト（絵を描いた石を市内に設置する事業）、みがこうプロジェクト（市内を清掃する事業）などに参加した。

⑦コミュニティ、人脈づくり

活動時間外の合間を縫い、市内外で行われるイベントに出席。コミュニティや人脈を広げるように努めた。時間外活動ではあるが、主催イベント「石和ディープ飲み！」も開催した。

【所感】

多くの人に助けられて、色々な活動をすることができました。どんな活動も「移住」というテーマにつながると思うので、これからも続けたいと思います。また 1 年間を通して「地域の人口減少」「移住」などについて考えましたが、行政だけでなく市内に住む一人ひとりの危機感や意識が大きく影響すると感じました。

【今後の目標】

- ・ 市民有志の移住支援組織の設立、運営
- ・ 笛吹市と地域おこし協力隊の PR を狙った特産品開発